

# 進む在宅医療DX化 ①⑩

有限会社タカダ薬局

神頭憲司

代表取締役



043-222-4187

takada-ph.co.jp

千葉県千葉市中央区院内2-14-1  
第一カナルビル5階

## ビジョン

自働車の最新技術を搭載した見守りシステム、テクノロジーで「新たな介護現場」の実現へ。  
介護職員の皆様の負担軽減、離職防止、採用強化に必ずお役に立てます。

人手不足や夜間巡回の負担など、介護現場が抱える課題は年々深刻化しています。こうした現状に向き合ってきたのが、薬局経営者として現場を熟知する神頭憲司氏です。介護の「見えない不安」をテクノロジーで支えたいという想いから出会ったのが、ミリ波レーダーを活用した見守りシステム「フィンガルリンクコネクト」でした。本記事では、特別養護老人ホームでの導入事例を通じて、カメラ不要で実現する介護DXの効果や、職員の負担軽減、現場に生まれた変化をリアルに紹介します(2025年12月取材)。

## 異色の経歴を持つ経営者が「見守りシステム」に惚れ込んだ理由

まずは神頭さんのこれまでのキャリアについて教えてください。最初から医療・介護業界にいらっしゃったわけではないそうですね。

はい、実は全く畠違いの経験なんです。両親より曾祖父母が教員という事を聞かされ大学時代は教職課程を経て教員の道を半ば目指しました。そのまま学校の先生になる道もありましたが、ご縁があって建設業界に進み、「サブコン」と呼ばれる電気通信や設備工事を行う会社で現場監督や営業を経験しました。この「現場でモノを作る」「インフラを整える」という経験が、今の見守りシステムの導入やDX推進にも生きているかもしれません。



## そこからなぜ、調剤薬局の経営へと転身されたのですか？

30代後半に、妻の実家が経営していた薬局事業に関わることになったのがきっかけです。当時は建設業界も厳しい時期でしたから、「隣の芝生は青い」ではありませんが、医療・介護という安定したインフラに可能性を感じて飛び込みました。薬剤師の資格は持っていないので、最初は業界の慣習に馴染むのに相当苦労しましたが、現場の皆様の御協力のお陰で5店舗だった薬局を、現在はグループ法人含めて9店舗までになる事が出来ました。



タカダ薬局にジョインした頃

## タカダ薬局としては、具体的にどのような事業を展開されているのでしょうか。

千葉県エリアを中心に、地域密着型の調剤薬局を展開しています。

大きな特徴は、店舗で患者様を待つだけのスタイルから、こちらから出向く「在宅・施設訪問」へ大きく舵を切った点です。創業当初は外来の処方箋対応が中心でしたが、高齢化社会が進む中で調剤薬局の役割も大きく変化して参りました。現在は個人宅や特別養護老人ホームなどの介護施設へ薬剤師が訪問し、お薬の管理や指導を行う「訪問調剤」にも非常に力を入れています。

単に薬を渡すだけでなく、介護スタッフの方々と連携し、医療と介護と地域との橋渡し役を担うことが私たちのミッションだと考えています。

## 薬局経営者が、なぜ「見守りシステム」というハードウェアの領域に深く関わるようになったのでしょうか。

その「施設訪問」を通じて介護現場に入り込んでいたことが大きいです。50代になった頃、ロータリークラブのご縁で介護施設の理事長様とのご縁を頂きまして、そちらの施設に外国人人材紹介をさせて頂いたのがきっかけで、そちらの法人の仕事を任されるようになりました。

そこで見たのは、夜勤や排泄介助で疲弊しきっている介護職員たちの姿でした。「薬を届けるだけでは解決できない課題がある」「このままでは介護現場が崩壊してしまう」という強烈な危機感を抱いたことが、今の活動の原点です。我々は介護施設様よりお薬のお仕事を頂いている中で、薬局として介護施設の困りごとを解決するために、何か薬以外のアプローチが必要だと感じていました。

## 「フィンガルリンクコネクト」との出会いはどのようなものだったのでしょうか。

1年ほど前、友人の経営者を介してユーワエブさんのこの見守りシステムの話を聞きました。カタログを見た瞬間に「これは違うぞ」と感じ、すぐに好意にしております、埼玉県にあります介護施設の会長様他幹部の皆様をお連れしまして、開発拠点である北九州市小倉にあります介護施設様、社会福祉法人「正勇会様」まで視察に飛びました。

そこで目にしたのは、カメラでもない、自動車の技術にも使用されているミリ波レーダー・また、室温・湿度を検知するセンサー・体温を検知する温度センサーを搭載し、入居者様の身体に触れず、天井（サイズは10cm×10cm）に取り付けるだけで、呼吸・心拍・起き上がり・離床・就床がリアルタイムに画面表示されている光景でした。人の手と目で見守ることが「美德」とされていた介護の世界に、とてつもないテクノロジーの波が来ていると衝撃を受けましたね。

## 提案にあたって迷いはありませんでしたか？

全くありませんでした。「美味しい料理を見つけたら、大切な人に食べさせたい」という感覚と同じです。普通なら補助金の申請を待って導入するのでしょうが、そんな時間は惜しいと提案先の施設の会長様は仰ってくれました。「関東での導入第1号にしましょう」と宣言して頂きまして、自己資金での全床導入（120室）を即決で決めて頂けました。それくらい、このミリ波レーダー技術には確信めいたものを感じて....



2号機（左）と3号機（右）



現在の4号機



続きはQRコードからアクセスしてください → → →